

梅鶯仏教壮年会報

第128号
2015年
9月23日

「金子みすゞ」を訪ねて

―梅鶯仏教壮年法親睦旅行―

「私はここのとこにいくと思わず涙が出るのですよ・・・」

これは上山大峻先生が、ご自坊の本堂で私たち8人のために金子みすゞさんの詩について語って下さり、『日の光』という作品の最後の一節に差し掛かった時に思わず吐露された言葉でした。おてんと様のお使いが、そろって出かれます。それぞれが「明るさ」や「楽しさ」「清らかさ」を届ける役割に喜び満ちあふれる中で、

残った一人はさみしそう。

「私は〈影〉をつくるため、やっぱり一しよにまいます。」

と詠う一節です。

人生は楽しいことばかりではなく、逃れることのできない苦しみも受け容れていかなければなりません。

金子みすゞさんは、嫌われながらも一緒にいていかなければならない〈影〉を決して見逃さないのでした。

私たちは、感慨深い上山先生のお話に響き合い、まさに「金子みすゞワールド」に浸り続けました。

このような悦びの中で、三日間の聞法親睦旅行が無事終了しました。

参加された皆さんに、順次「旅の思い出」を報告して頂く予定ですが、まずは上山大峻先生に特別寄稿を頂きましたので掲載させていただきます。

《上山大峻先生特別寄稿》

お念仏がそだてた

金子みすゞの心

あらゆる《いのち》への思いやり。

金子みすゞの詩のやさしさは、そのことにあります。

「積もった雪」という詩があります。

本堂にて



上の雪 さむかろな。つめたい月がさしていて。

下の雪 重かろな。何百人ものせていて。

中の雪 さみしかろな。空も地面（じべた）もみえないで

「中の雪」のさみしさに誰が気づくでしょうか。

他者の悲しみ喜びを自分と同じ

に感じる「思いやり」の心は、仏さまの心です。自分中心にしか考えることができないのが私たち人間です。

おしゃカさまは、「わが身にひきくらべて人を殺（あや）めてはならない」と言われます。それぞれに姿や形は違っていて、も、みんな自分の大切な《いのち》をもっています。

《いのち》をもっているのです。それが分かったら、お互いにそれを護り助けたいかなければならない。

小さい虫でも、木や花でも、そして雪でも、みんな大切な《いのち》をもっているのですから。みすゞさんの詩には、そんな「思いやり」の心が

金子みすゞ（一九〇三―一九三〇）が生まれた仙崎という地域は、浄土真宗の

（裏面につづく）



山門でお迎えを頂く

行き届いたところ
で、みずさ
んもそのよう
な土徳へどく
（その土地に染
みついている精
神の特徴）のなかで育てら
れてきました。

特に祖母のウメさんは、
篤信の念仏者でした。

いつも孫娘に仏さまのこ
とを話していたに違いあり
ません。

それがみずささんに染み
こんでいたのです。

金子みすゞの詩の魅力

山門での
記念写真

は、特に良いこ
とを言おうとい
う「りきみ」が
ないことです。
いつも感じて
いることをその



浄泉寺本堂内



まま詠（うた）
っていること
です。

念仏の土徳が
自然にあらわ
れています。

しかし、私たち日本人
は、戦争に負けて以来、戦
勝国のアメリカの文化や人
間性を目標にし

て、日本人の人
を思う心や、や
さしさを弱い心
だと思つて変え
ようとしてきま
した。

たとえば自分のことより
先に人に迷惑がからな
いように配慮する
「思いやり」の
心を捨てて、ま
ず自分の損得を
先に考えるよう



森会長と



書院庭園

浄泉寺本堂



な人間になつ
てしまいまし
た。

金子みすゞ
の詩を読んで
いると、私自
身がいつのま
にか自分のこ

としか考えな
いせちがらい私に変わつて
いることに気がつきます。

やはり仏教が育てた日本
人の「おもいやりの心」は
素晴らしいものだつたので
す。それがだんだん枯れか
けています。

聖徳太子以来、一四〇〇
年、日本人が守ってきた仏

教が育てた日本
の心を枯らして
はならないと思
います。
今こそ水を注
いでいくことが
必要ではないで
しょうか。



金子みすゞ
記念館

本堂前での
記念写真



へ上山先生から
届いたメール

長野了法様
せっかく遠方よりお出で
いただいたのに、十分なお
もてなしもできず失礼しま
した。

（中略）

それにしても、いい感じ
の壮年会で羨ましいかぎり
です。また、どうかいらつ
しゃってください。どうか
皆さまによろしくおつ
しやってください。

浄土真宗のみ教え②「凡
夫」の前号からの続きは、
予定を変更して次号に掲載
致します。ご了承下さい。
法輪寺、梅鶯仏教壮年会
共催の報恩講は、十一月二
十一日（土）に厳修致しま
す。
講師は藤浪正明師（坂田
組組長）です。こぞつてお
参り下さい。